

伝統は革新の積み重ね 道後温泉の「最古にして最先端」の取り組み

道後温泉誇れるまちづくり推進協議会 会長 宮崎 光彦



道後温泉誇れるまちづくり推進協議会とは

道後温泉は三千年の歴史を誇る日本最古の温泉地として全国に知られています。実は明治27年改築の道後温泉本館を中心に観光産業の基盤整備が図られ、小説「坂の上の雲」に描かれている当時の松山人の志と百年先の今日を見越した先見の明により、現在の繁栄の基礎が作られたといっても過言ではありません。

私たちは、先人が遺した偉業・遺産に依存しているだけではないかとの反省のもと、平成4年に道後温泉の旅館や商店街の枠を超え、地元町内会の方々や各大学、金融機関や市内の様々な企業・団体、個人等で構成する地域主導の新しいまちづくり組織（現会員数約210名）を立ち上げ、もう一度百年先を見据え、恵まれた歴史文化資源を活かし、地元の人が誇りを持てる湯の街情緒豊かで魅力ある都市型温泉郷づくりに取り組んできました。

“思いをカタチに”

道後の根本的課題を、①国の重要文化財である道後温泉本館に過度に依存②歴史文化を標榜しながらも希薄な歴史の視認性③地域間競争の中で相対的な温泉力・地域力の低下ととらえ、2次にわたるグラウンドデザインを策定し、坊っちゃん列車の復元運行実現や足湯・手湯の開設、浴衣の似合う街歩きや開運巡りの構築に加え、平成19年には官民協働で道後温泉本館周辺の道路の付替え等により画期的賑わい空間を創出。これに先立ち平成18年、住民一



ファサード整備後



ファサード整備前

人一人が美しい街並みを形成するための行動指針、そして将来に向け湯の街情緒豊かで賑わいのある歴史文化と新しさが融した景観を持つ美しい我が街を自助努力で作る意志としての「道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言 道後百年の「景」を取りまとめ、地域主体による看板規制やファサード整備などの実績を重ねています。



道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言

“最古にして最先端”

道後温泉本館改築120年の大還暦を迎えた平成26年の記念事業「道後オンセナート2014」では、草間彌生を



足湯めぐり

はじめ国内外の著名芸術家たちによる、泊まれるアート作品群「Hotel Horizontal」が日本で初めて誕生。また、気鋭のデザイナーアーティストによって体験型アートやイベントが道後に点在し、「温泉×アート」の魅力を最大限に味わえる「最古にして最先端」の新たな試みが行われ、その運営も次代を担う地元クリエイターたちが担当し、会期後も持続可能な機能と関係性を作るなど、実花さんや山口晃さんの道後アート事業の成功へと繋がっています。

これらの結果、昨年国連主催のアジア都市景観賞を受賞し、楽天トラベルの



山口 晃



草間彌生 Hotel Horizontal

「女性一人旅人気日本一」を3年連続獲得、また、環境省と観光庁後援の「うるおい日本プロジェクト」での「温泉総選挙2016」で道後温泉が女子旅部門1位に選ばれるなど、入込観光客の増加と「空き店舗ゼロの商店街」も実現しています。

“見える化による価値化”

一方、道後地域では、本館改修工事や旅館ホテルの耐震化を目前に大きな危機感があるものの逆にチャンスと考え、本館に頼らない温泉地に取って代えていく一大転機と位置づけ、各宿泊施設や商店街の更なる商品価値向上に加え、心地よく過ごせる時間と空間づくりのために、



道後温泉別館 飛鳥乃湯泉(あすかのゆ)



円満寺のお結び玉

“伝統は、革新の積み重ね”
道後には一部地域景観や湯量、協議会運営資金、人口減少社会への対応など、まだまだ多くの課題が山積しています。しかし、道後温泉の伝統は、革新の積み重ねです。「日本最古の温泉地」から「日本の温泉文化の歴史を発現した温泉地」へと次代に継承発展させていくには、何よりも地域に対する愛情と誇り、地域住民の結束と行動力が最も大切です。

当協議会は、これからも交流人口拡大を目指し、裾野の広い観光産業の特性を生かした県内各地・各産業との連携強化のもと、地域自らが来訪者を創造する新しい観光まちづくり挑戦していききたいと思っています。

貴重な地域資源の再構築と歴史的・文化的資源の「見える化」による「価値化」を進めています。
その一つとして、道後に深い歴史性を表現するための象徴と景観保全や湯巡り・街歩きのコアとなる、古代から各時代で愛されてきた『歴史的温泉施設群』整備に取組んできましたが、念願の第3の外湯「道後温泉別館飛鳥乃湯泉」が遂に今年9月に実現の運びとなります。テーマは、「名湯と歴史浪漫に浸る」。単なる景観の修景や施設の復元・再現を超え、道後そのものが体感できる本物を活かした、まさに新しい価値が生まれます。